振り返り

原爆は大変なことだったということは知っていた。けれど、その近くにいた人の話を聞いて、すごく大変なこと断案だと実感した。また、映像も写真もありわかりやすかったのでよりよく伝わった。そして、色々な新たな単語も出てきて日本にとって重大な歴史なのだろうからそういう言葉はきちんと覚えようと思った。そして、あの映像を見て、一瞬で死んでしまったりした人のためにもきちんと生きようと感じた。そして、このことはいいことではないけれど、覚えて未来へ話し続け二度と繰り返さないようにしようと思った。この原爆先生の授業はすごく勉強になった。

原爆先生の話を聞いて僕は、様々な知らない、聞いたことのないような話を聞いたと思いました。話の内容で、亡くなっていない被爆者全員と言って良いほど、影に隠れたら怪我で済んでいたので、影がそんなに大事だったんだと思いました。
被爆者の話の中では、資料館の人の模型を見て、ボソッと言ったことがあまりにも想像できない言葉だったのでどれほど怖い思いをしたのかわかるような一言だったと思います。
僕は広島の原爆ドームに行ったことはあるのですが、原爆先生の話を聞いたら改めて新しい思いで行ってみたいと思いました。原爆先生から貴重なお話を聞けたのでこのお話が社会の授業や他のことで活かされたら良いなと思いました。

今まで戦争の爆弾のことを舐めていたけど、原爆先生の授業を受けて本当に怖いものなんだなと思いました。爆発したところから何キロも離れていても、人間の形じゃなくなるなんて、、とすごく怖くなりました。この授業を受けて、最も日本に生まれてよかったと思えました。

途中で怖くて抜けてしまったけれど、鈴木先生が「そうやって怖くなるのは、伝えたいことが伝わっている」と言ってくれ、声だけでも十分に怖かったから、絶対にもう一度起こってはいけないと思った。
たった80年前に、今では想像できないことが起きているから、後世に伝わると良いと思った。

原爆先生の話を聞いて、戦争は本当にやるべきことじゃないので絶対にやらない方がいいということがわかった。また、戦争中の地上の温度は、40度くらいだと思っていたのに3000度ということにすごくびっくりしました。
私はこの授業を聞いて戦争は絶対にやるべきことじゃないし、人々が何人も死んでしまうのになぜやるのかもっと調べたいです。

僕は、1945年8月に原爆が落とされ、大変な事があったのは知っていたけど、詳しい事はあまり知らなかったので良かったです。例えば、実際に体験した人の証言や、どのような規模かなどがわかりました。また、僕は小さい頃に原爆ドームや資料館などに行ったことがあるけど、もう一度行ってみたいと思いました。なぜなら、新しいことをたくさん知ってから行くともっとためになると思ったからです。
僕たちが大人になる頃には、このような貴重な体験ができないかも知れないから、今回の授業で聞いたことや観たことはしっかりと頭に残そうと思います。

今回の原爆先生の授業はトラウマになるほど怖くて残酷だったけれども，我々日本人が知っておいた方がいいことを学べた気がした。とても怖くて目を背けたり耳を塞いだりしたかったが，それほどのことが日本に起きたのだなと心が痛くなった。また，話を聞くと何度吐いてまでも死体を運んだりするのは私なら絶対に無理だな。と思い，自衛隊の人々はとても偉大だなと尊敬した。そして私たちは今映像を見ていて他人に起きたことの様に感じていたがこれから何が起きるかも分からないため，私たちも油断はできないなと感じた。最後に、とても昔に起きた出来事で生き残った人も少ないため，とても貴重な時間になった。確かに怖かったが，日本に何があったかを知るための貴重な時間のため，心に刻もうと思った。

原爆が多くの人の命を壊したのは知っていたが、包まれた飛行機の名前や原爆の名前などは知らなかったから勉強になった。

今まで原爆や戦争についてはあまり考えてこなかったのでこの授業を受けれて良かったと思った。それに当初の映像などが見れてわかりやすかった。この授業で知ったことをこれからの授業などに活かしていきたい。もしこのことを知らない人がいたら教えてあげたいと思った。この授業を受けて原爆がどれほど危険なものかよくわかった。

原爆と言われても今までは具体的な例えみたいなのがなくて悲惨さがあまりわからなかったけど今日のお話で一気に原爆に対する見方が変わった。今日は広島の話しだったけど長崎の方もきになった。皮膚がはがれおちた場面を想像しただけで吐き気がしました液体窒素でも充分痛いのに3000℃は想像を絶する痛さなんだなと思いました。死を軽く見てる言い方になってしまうんですけど、爆心地の真下にいたらすぐに死んでしまい痛みはあまり感じなそうだなって思ってしまいました。怪我した女の子が充分な治療を受けられずに傷口にうじ虫が発生してしまったけれど助けてもらえて良かったとおもいました。でもこのような怪我を負ってる人がもっと沢山いたと思うと辛くなります。また広島人口の35万人全てが被曝しており原爆の威力の高さに驚きました。言葉だけでは表せられない悲惨さに思い出しながら書いてるいまも気持ち悪くなってきました。そのうち第三次世界大戦も起こると言われています。その時には原爆を使ってほしくないなと思いました。まず戦争すら起きないでほしいです

僕はこういう話はあまり知らなかったけどこの原爆先生の授業でこんだけ辛い思いして死んでしまった人がいたから本当に昔の人は辛い思いをしているんだなと思いました。
そして原爆先生の親は本当に広島の原爆を経験してた人だから動画で映っていた時も泣いていたのでそんだけ辛い思いしてるんだなと思いました。
原爆先生の一番心に怖いなと思ったのは火傷で皮膚が溶けている人がいっぱいいたことです。その中でも義三さんが生き残ったことは本当に頑張ったんだなと思いました。
そしてこの授業でよく広島原爆のことなどをわかったからこのことを自分もお母さんとかにも伝えたいと思いました。

私は原爆先生の話を聞いて、私は原爆が起こってどうなるのかなども全然知らなくて、授業で聞いてそうなんだとしか思ってなかったけど今回の話を聞いてこんなに大変なことになってることも知りませんでした。だから今回の話を聞いて受け継がれている人も少なくなっているのに中野区の多くの小学校にこのように一人で教えていってるのもすごいと思いました。なので次このような授業の内容をするときは、しっかりとこの学んだことを考えながらやっていきたいと思いました。

今日この原爆先生の授業でいろいろなことをかんがえさせられました。特に考えさせられる他と思ううとことは、死体の処理のことや大火傷を負った人たちのことです。なぜ考えさせられるというと、生きたくても生きれないし助けてほしくても助けてもらえないひとたちがいるからです。また、原爆の恐ろしさを詳しく知れました。特に怖かったのが熱線や温度についてで、例え建物の中にいても黒焦げになってしまうといくところです。今回この授業で知らないことを詳しく知れてよかったです。また、とてもいい経験になったので授業などに活かしていきたいです

今回の原爆先生のお話を聞いて、戦争を経験した方の話を聞く事が出来て嬉しかったです。途中で、少しだけ怖い出来事について言っていて正直すごく怖かった。そして、原爆の高さや温度について知れたので、今後の学習に生かして行きたいと思います。最後の原爆先生のお父さんのお話の動画を見ると、経験について詳しく言っていたので聞いた事を忘れないようにします。本当に今回のお話は、これから社会で戦争についてやるから、原爆先生のお話を思い出しながら取り組みたいと思います。

こんなことがこれから起きないほうがいいと思った。タイトルの意味がわかった時スッキリした。知っている言葉が出てきて聞きやすかった。人々の状態を知った時気持ちが悪くなった。キノコ雲の仕組みを知ってびっくりした。

今日の原爆先生特別授業を通して、原爆や戦争の辛さや悲しさ、苦しさをより深くわかりました。
原爆先生が話している時の表情はとても悲惨な過去だったことを語っているように見えてとても戦争は皆んなの生活が壊れることが伝わりました。
私たちと同じ10代の人が軍隊にはいるなんて今では想像できず、話を聞いて私みたいな子供がどんなに苦しくても戦争のために働いていることを知りました。
このことから私はこれから苦しい人や悲しい人に手を差し伸べれるような優しい人になれるよう努力したいです。

僕は今まで広島と長崎で原爆が落とされたことくらいしかわからなかったけれど原爆先生の授業で、たった一つの原爆でこんなにもの命や人の心を奪ってとても酷いことが改めてわかりました。その他にも実際に体験したよしぞうさんの話を聞いて、沢山の人が死んでいるのを片付ける際に悲しいと思っていたと思います。また言葉で解決すればいいのに武力などで争うのは江戸時代までの人と同じことをしてとても心の狭い汚れているなと思いこれから二度とこういうことをしないようにしていきたいと思いました。今こうして自分たちが当たり前のように幸せに暮らせているのに、昔は何もしていない広島や長崎の人にまでこれからの実に素晴らしい人生を破壊されていると思うととても悲しくなりました。今もこうしたように戦争を続ける国などが沢山あります。そうした人たちの中にも実際に戦死した人も沢山いるので日本だけでなく世界でみんなが幸せになれるようにしていかなければならないと思いました。

私は、原爆についてあまり知りませんでした。でも、今回の授業を通してもっと学ばなければならないなと思ったし、もう二度とこのようなことはおきてほしくないなと思いました。被爆者は、聞いているだけでもとても怖い被害に遭われたことが印象に残っています。また、京都が狙われなかったことも心に残っています。そんな京都をこれからも大事にしたいなと感じました。こうして特別な授業を受けることができて良かったです‼

　今日原爆先生のお話を聞いて思った事が２つあります。1つ目は、今まで知ったこと以上に知れたことです。今日のお話は実際に経験している人の話で私が思った以上に残酷で、触れただけで皮膚が溶けたりなどのことが本当にあるか疑うくらい驚きました。後原爆は太陽より熱いのに地球に落ちたら終わりだしその場面が1番心に残りました。２つ目は、原爆直後の様子から今の様子になるところがすごく変化していてびっくりしました今後は絶対にこう言うことがないようにしたいです。

今日の原爆先生特別授業で原爆がどれほど恐ろしいものか分かった。
また実際の被爆者は言葉なんかでは表せない悲惨さだと言っていて、
そんなに大変だったんだなと思った。太陽の表面よりも熱いものが落ちてくる
なんて事を聞いた時はとても驚いたし、そんなことがあるんだと思った。
義三さんがどんなに残酷な様子を目の当たりにしていたかはわからないが
とても大変であってはならない事なのに任務をやり遂げ、今にまで伝えてくれたの
もすごいと思う。またNPO法人の池田さんからは、絶対にこのような悲劇を起こさないという心が伝わってきた。広島だけでなく日本中でこの悲劇を忘れず、また決して繰り返さないという取り組みがあるので、自分もこのことを忘れず将来に伝えたいと思った。

今回から原爆先生からお話を聞いて思ったことは「驚き」です。何故驚いたかと言うと、
まず悲惨さが予想やイメージと違っていたからです。僕が思う原爆は死者がたくさん出たり
家がたくさん壊れると言う感じでした。ですが、今日お話を聞くとこれだけでなく、皮膚がただれていても生きていてずっと苦しんでいる人がいたり、死んでいるか生きているのかわからないくらい酷い姿になっている人がたくさん絵でも分かったので驚きました。それに、
原爆資料館に行ったと言う三義さんは、僕たちがみたら驚くような映像や写真を見ても綺麗過ぎるとか感情が出てこないと言っていたので、それほどまでに酷かったのかとびっくりしました。

原爆の怖さが改めて分かった。太陽よりも暑いなんて思わなかった。そして7000度と想像しただけで怖くて、実際に現地にいた人はの気持ちが少し伝わったような気がしました。上空600メートルで爆発したのに下の温度は3000度もあるなんて驚いた。この話は広島が舞台だったけど長崎にも落とされていて同じ事は2度と起こらないで欲しい。

今日の原爆先生の授業の感想は二つあります。一つ目は原爆と戦争の恐ろしさをしれたことです。もちろん恐ろしいことは知っていたけど今もこのお話を聞いて絶対に戦争は良くないと言うことをもっと感じました。二つ目は原爆ドームに池田さんたちが行った時に女の人のことをお父さんが綺麗すぎると言ったことです。あれでもすごく恐ろしかったのにあれよりも恐ろしいものを見たと言うことが衝撃でした。私は今回の話を聞いて色々なことをしれてよかったです。まだ他の国でもあることがあるのでなくなってほしいです。

今回の原爆先生の話を聞いて思ったことは2つあります
1つは原爆の危険なことがわかりました。なぜなら3000℃位だけでなく放射線や衝撃波があるからです
2つ目は隠れてもほとんど意味がないということです
水の中に入っても死んでしまうということがわかりました

今までは自分にはあまり関係のないことだと思っていたけど、今回原爆先生の特別授業を受けてちゃんと原爆のことなど学んで歴史に残るような悲しい出来事だということが改めてわかった。被爆された方たちの様子が伝わってきてでも実際はもっと悲惨だったことを知れた。太陽よりも熱い温度だったことや衝撃波の速さは毎分440mで音よりも早い速さということに驚いた。教科書などではなく直接お話を聞くことで原子爆弾のことや辛さなどがすごく伝わった。ありのままの過去を知れてよかったし被爆経験者の方の経験を無駄にしないように平和の大切さを伝え続けたい。友達と遊んだりできている平和な一日一日を大切に生きたい。

今日の原爆先生の話を聞いて今までよりも原爆の恐ろしさなどをより実感することができた。映像を見て被爆した人などがどのようになったかなどが分かり原子爆弾などは使うべきものじゃないなと思った。座っていた場所に影が残ると言う話を聞いて、原爆資料館などでどのような感じだったのか見たくなった。

広島・長崎に原爆が落ちてその時の戦争のつらさなどが伝わった。そして、なぜ広島と長崎に落ちた理由などがわかった。たくさんの人たちが亡くなったり、自分たちが思っているよりも原爆は恐ろしく大変だったことを教えてもらった。原爆先生がいままで経験したことをもとに原爆の恐ろしさを具体的にその原爆がどれだけのものだったのかがわかった。いまでは原爆ドームなど後世に伝えていくために建ててあったり、その時のことを証言していることで原爆の恐ろしさが伝えられているのだと思った。

この授業を受けて、
戦争の一発の原子爆弾で大勢の死者がいて、「14万人」もいて一発の爆弾でこんなにも人が被害を受けていることがわかった。
死ななくても、大火傷になって苦しい思いをした人がいて、戦争で死ぬのが可哀想だと思いました。私は、戦争がこんなにも大勢の人が被害を受けるのが知らなかったから原爆先生から知らないいろいろなはなしを聞けてよかったです。機会があったら原爆ドームに行って色々と見に行きたいです。

私は、今回の原爆先生の授業で原爆の怖さを知りました。たとえば、衝撃波の速さが毎秒440mで音速よりも速いことや、死亡者が十四万人であり、その二万人くらいは一瞬で亡くなったことなどです。他にも、キノコみたいな形の雲のでき方や京都が狙われていたけれど、重要文化財がたくさんあり、日本を占領しやくするため候補からはずしたことなども分かりました。そして、被爆した人の話も聞いて、原爆って怖いんだなという思いが以前より強まりました。私は、戦争は良くないと感じました。今、戦争をしている国がありますが、今すぐやめてほしいと思いました。

原爆先生の特別授業で思ったことは2つあります。一つ目は原爆の恐ろしさを改めて知ったことです。最初の頃は原爆が落ちた瞬間消えてなくなってしまうのかと思っていたけど、さらに恐ろしいことに、近くの人避難している人のほとんどは肉が見えるほどの大火傷を全身ににしていて、人かどうかもわからない状態といっていたし、周りの建物もほぼ全てが瓦礫になっていたと言っていたので改めて原爆の恐ろしさを知りました。2つ目は、原爆についてよく知れたことです。リトルボーイという名前だったのは知っていたけど、爆発した時に中心の温度が100万度を超えていたのは初めて知りました。しかも原爆雲ができる原因も知らなかったので勉強になりました。原爆先生の話を聞いて特に思ったことは日本に限らず今でもこういう戦争が起きているんだなと改めて感じました。なので未来には戦争などの争いがない世の中になって欲しいです。そして、原爆先生の話を聞けてよかったです。

ぼくは最初原爆の話を大切に残さないといけないけど軽々しく考えていました。だけど第二次世界大戦の始まって日本が孤立した映像で戦争は重々しいものだと思いました。日本のどんどん孤立していく映像を見て日本は意地になって戦い続けたと思いました。そこで日本の広島と長崎に落とされた原子爆弾は同時の日本の人にとっては地獄のようなものだと思います。先生は原爆（リトルボーイ）の意味を少年と強調していました。その後の説明で周囲10キロに3000℃で中心は太陽の表面温度よりも高いと言っていました。そこでぼくはタイトルの3000℃の少年という意味に気づきました。その後原爆を人がいた所は黒いこげになっていると言ってしっかりと説明をしていました。主人公が義三でスターリを進めていくうちに人が黒焦げになっているや皮がズルズルと取れる、などの少しグロテスクな表現が怖かったです。その後の現在の義三さんの話で原爆資料館に載っていることよりももっと痛々しいと言っていました。だから原爆先生の授業でも伝えきれられていないのじゃないか？と思いました。だから自分たちは限界まで伝えられてそれを残していくこ

わたしは原爆先生のお話を聞いて心に残ったことは2つあります。1つ目は太陽の表面温度よりも熱い7000度だったことです。そんなに熱かったら川の水も、体の中の水分全部が蒸発しちゃうと聞いてすごく怖かったです。2つ目は皮膚が剥がれちゃうことです。手を引っ張ってトラックに乗せてあげようとしても手を引っ張った時に皮膚が剥がれちゃうと聞いてお互い辛そうだと思いました。わたしはこんなに非現実的な話を聞いたら最初は信じれませんでしたが、原爆先生の話し方の表現がリアルでこんな怖いことが現実であったのがすごく怖いです。日本はもう戦争をしないといったので今はすごい安心しています。